

ヨセフ・フランクのインテリアデザインに関する研究

ファルステルボ 夏の家・スウェーデン

A Study on Interior Design of Josef Frank – Josef Frank's Villa in Falsterbo, Sweden

八代美智子

Michiko Yashiro

1. はじめに

ヨセフ・フランク Josef Frank (1885–1967) はスウェーデンでは有名なインテリアデザイナーでありウィーン出身の建築家である。現在も彼のデザインした家具やテキスタイルなどをストックホルムのインテリアショップのスヴェンスク・テン Svenskt Tenn で購入することができる。彼のデザインした家具は多様な形態であり高級な素材を使用したものも多く、またテキスタイルは自然の素材を用い彩度の高い色彩と植物を抽象化した大柄なパターンに特徴がある(図1)。こうした特徴はほぼ同時代に活躍したスウェーデン人デザイナーのカール・マルムステン Carl Malmsten (1888–1988) やブルーノ・マットソン Bruno Mathsson (1907–1988) とは異質である。才能に恵まれ、ウィーンでは重要な建築家であったとされていたが、意外にも彼の建築、特にスウェーデンにおける彼の建築については、日本は勿論スウェーデンでも知られていない。本稿では、現地調査に基づいて、スウェーデンに残された彼の住宅を紹介しながら、その空間の概要を明らかにしたい。

2. ヨセフ・フランクの経歴

デザイナーの作品は、その背景として経歴を抜きにしては考えることができない。彼は、他のモダニスト達と同世代であり、アドルフ・ロース Adolf Loos (1870–1933) の思想の後継者とみなされている。1885年に南部オーストリア州ノーデンで生まれ、1903年から1908年までウィーン工科大学で学んだ。1912年にオーストリア工作連盟の設立メンバーとなり、1919年から1925年までウィーン応用芸術学校の教授として教鞭をとった。1925年から1934年までウィーンでインテリアショップである Haus & Garten を経営するが、1938年ナチスに没収された。1927年にドイツ工作連盟開催のシュツガルト郊外で開催されたワイゼンホーフ・ジードルング住宅展示会にオーストリア人として唯一人招待されている。彼はウィーンの個人的な顧客の住宅プロジェクトや労働者の住む地域の住宅を設計しており、建築家としてデザイナーとして同世代の指導的立場にあるとされていた。ワイゼンホーフ・ジードルング住宅展示会における各住宅の表現は建築家の自由な創意に任され、後に「インターナショナル・スタイル」と呼ばれる陸屋根と白い箱形だけが共通の設計条件であり、フランクは他の住宅と大差のない外観の2軒家を提案したが内装は、当時標準とされたパイプ椅子の代わりに、彼の経営する Haus &

Garten の家具でしつらえた。それは、ラウンジチェアを強い色彩の花柄の布で張り、カーテン、カーペット、ピロとソファ、ランプシェードを縫いつけて固定した真鍮の照明器具などが挙げられる。女性的であることに加え、時代遅れとも批評されることとなり「フランクの売春宿」と酷評された。1928年にCIAM (近代建築国際会議) に第一回から参加した。1930年から1932年までウィーンにおいて、集合住宅展の建築家の指揮をとった。1934年にスウェーデンへ移住しインテリアの会社スヴェンスク・テンのチーフデザイナーとなり、その後スウェーデンの国籍を取得した。1942年から1944年まで New School for Social Research, New York で教鞭をとった。1965年オーストリア建築賞を受賞し、1967年にストックホルムにて歿したが、現在も彼のデザインは生き続けている。

3. スウェーデンでの活動について

① 家具、テキスタイル、日用品

1930年代にドイツ圏でファシズムが勃興すると、ほとんどの有能な建築家たちは国外へ移住していった。フランクは1933年12月スウェーデンへ入国後インテリアの会社スヴェンスク・テンのチーフデザイナーになった。彼の最初の仕事はスウェーデンのクラフトとデザインの協会が企画した展示会であったが、フランクのインテリアは他の人々と大きく異なっていた。それは展示会で見せた当時の他のデザインの退屈さに対する彼の主張とも言える。彼はモダンデザイン運動の方向にさらに批判的になっており、特にドイツにおいて1920年に創りだされた毎日使用するものと建物、室内、家具の間のデザインの統合を要求するバウハウスの理想に対して強い批判を抱いていた。ワイゼンホーフの住宅展示会におけるフランクへの酷評も、彼のモダンデザインに対するこうした批判的姿勢が理解されなかったことによるものと考えべきであろう。

② 建築

1914年にヨセフ・フランクはスウェーデン出身のアンナ・セバニウスと結婚した。夏の間、彼らは南スウェーデンのリゾート地ファルステルボ Falsterbo で過ごした。彼は1922年から1936年にかけて、妻の親戚や友人のためにこの地域に6軒の夏の「家」を設計したが、これは彼がウィーンやヨーロッパで建築家として最も活躍した時代にあたる。



スヴェンヌ・テン ショールーム正面



ソファ Liljevalchs (ヨセフ・フランク)



キャビネット W80×D38×H124cm (ヨセフ・フランク)



燭台 Friendship knot (ヨセフ・フランク)

図1 スヴェンヌ・テン ショールーム

②-1 ファルステルボについて

ファルステルボはスウェーデンの南西の先端に位置し、エーレスンド海峡にほど近いバルト海上の半島にある。世紀末の頃大部分は荒漠たる砂の荒地であった。リゾート地としての開発は1898年にストランドホテルが建てられ、同年商業都市マルメ Malmoまで鉄道が開通したことによる。ただし現在鉄道は乗り入れておらず、マルメから1時間ほど路線バスに乗車する必要がある。(図2)



図2 ファルステルボ位置図

②-2 ファルステルボにおけるヨセフ・フランク設計の夏の「家」概要

フランクは1920代から1930年代にファルステルボに6軒の夏の「家」のプロジェクトを完成させた。その建物は現存し、住み続けられている。建物の配置は以下の通りである。(図3)

②-2-(1) ビラ・クラソン Villa Claesson

一連の設計の中で最初のはクラソンClaessonの「家」であった。依頼人はフランクの義理の弟と妹のアクセルとシグンヒールド・クラソンであり、1924年から始めて1927年に完成した。その「家」はテラスと屋上の見晴らし台から海を望んで、砂の荒地の上にボートのように建っていた。現在は木々の間にはめ込まれたように建っている。(図4)

②-2-(2) ビラ・カールステン Villa Carlsten

1927年小さい木の「家」カールステンCarlstenはシグネとアラ



図3 ファルステルボにおけるヨセフ・フランクの夏の「家」配置図 ※下記建物の()内の数字は配置図数字に同じ



外観



内部

図4 (1)ビラ・クラウン

ン・カールステンのため建てられた。最も海に近い位置にありテラスの一つからエーレスンド海峡の景色が見え、もう一つのテラスからバルト海が見えた。ピンク色の建物で4つの部屋があった。現

在の住人(フランス人)はフランクの友人からオリジナルの家具付でこの家を購入したと言う。(図5)



外観



内部

図5 (2)ビラ・カールステン

- ②-2-(3) ビラ・セット Villa Seth(図6)
- ②-2-(4) ビラ・ロフトマン Villa Laftman(図7)
- ②-2-(6) アンデシュ・エステリングのアトリエ
Atelje Osterling(図8)

1934年に2軒の木造の「家」薄いピンク色のセット Seth(図6)と薄いブルーのロフトマン Laftman(図7)が隣接して建てられた。同年詩人アンデシュ・エステリングのために仕事場を含む変則的なプラン(図8)でデザインされた。

- ②-2-(5) ビラ・ベッチェ Villa Wehtig

1936年にビラ・ベッチェ Villa Wehtjeがマルメからの生産業者バルテル・ベッチェのために不規則な敷地1杯に建てられた。天井の高さが様々で、ドラマチックな動きのある空間である。夏の期間の生活を楽しむためのピンク色のスタッコの大きな「家」は、フランクの最盛期のものである。この「家」はこの地域でフランクの最後の仕事となった。(図9)

- ②-3 ファルステルボ夏の「家」内部空間について
(1)小規模な箱型の建物ビラ・カールステンの内部空間



外観



外観



内部



内部

図6 (3)ビラ・セット



外観



内部

図7 (4)ビラ・ロフトマン



外観



内部

図9 (5)ビラ・ベツェ

図8 (6)アンデシュ・エステリングのアトリエ

小さなドアから玄関ホールへ入るとすぐに居間が広がっており南へ向けて出窓が続いており移動式のテーブルと椅子が置かれ

ていた。この窓に続いて次の出窓があり、ここには固定したテーブルとベンチがあった。北側は居心地の良いソファのあるコーナー

であり、この空間の中心は暖炉であった。側にある階段を上ると2室のベッド・ルーがあった。空間の中で、複雑な空間の繋がりがあった。(図5, 10, 11)

(2)大規模な変形の建物ビラ・ベツェの内部空間

ビラ・ベツェは、その変則的な計画が気まぐれな印象を与えるが実際に敷地の状況にもとづいて境界線に従っている。その内部は、天井を様々な高さにしたり、動線を強調するために動線の方法を様々にしている。訪問客は曲線の建物の2つのウイング間の中庭を通過して玄関へ入る。玄関を入ると北側に面した大きな丸窓があり一方には階段を数段あがると寝室のエリアがあるが、訪問客は180度他方向へ回り狭く高い天井の廊下から中央ホールへ導かれる。中央ホールの大きなガラスの開口部を通して床の上

に南の光がながれこんでいる。その効果には目を見張るものがある。この部屋はこの「家」の中心であり、階段はここから上の階へ続いてゆく。(図9, 12, 13, 14)

4.まとめ

ファルステルボの夏の「家」のビラ・カールステンやその後建てられたビラ・セッやビラ・ローフトマンの計画は、小さな家においてできる限りの変化を創り出すために最大限効果的に考慮されていた。空間と空間との複雑な繋がりがあり、動線の配慮や、開口

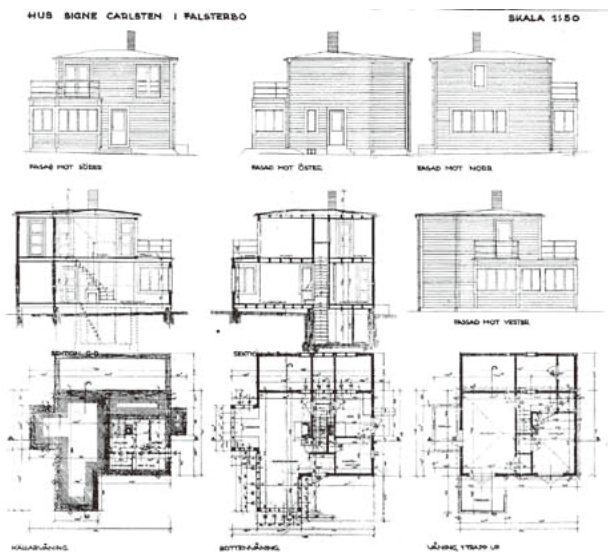


図10 ビラ・カールステン 平面図, 立面図, 断面図



図11 ビラ・カールステン 模型



図12 ビラ・ベツェ 立面図

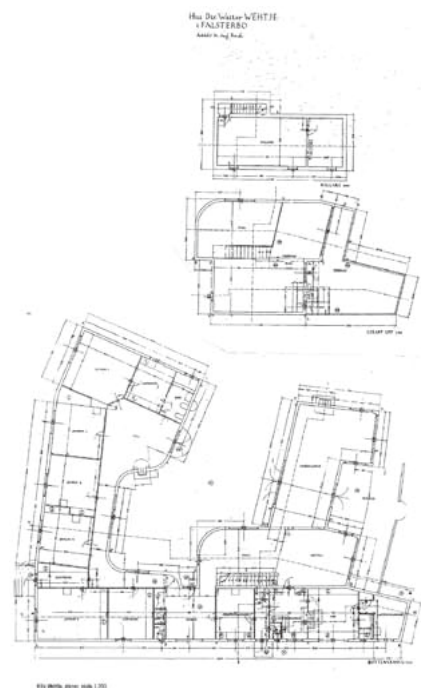


図13 ビラ・ベツェ 平面図

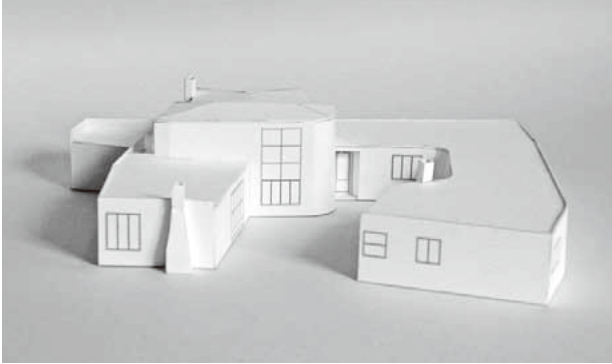


図 14 ビラ・ベッチェ 模型

部と採光と照明など丁寧に計画されていた。フランクは、ファルステルボで唯一大規模で曲面の壁の建物ベッチェで様々な冒険を試みたり、偶然に起きることをかたちにした。天井の高さを変えたり、動線の方向や長さを変えたり、開口部の工夫をして、敷地に沿った変則的な形の空間を夏の生活の大きな楽しみのために造り上げた。フランクの建築は簡単な構成であるように見えたが、近づくにつれて綿密に計画されていることを知った。その装備については、各「家」ごとに住人が自由に選択し、彼のデザインした家具やテキスタイルも多く使用されていることから、彼のデザインが時代をこえて、一般に評価されていることが分かる。総じて特定の様式や無理な統一感のない自由な空間であった。この調査により、彼の住居にたいする要求項目として「建築の外観よりも内部の空間の創造に細心の注意をはらい身の回りの物の選択は全く自由である。」という主張を裏付けることができる。ファルステルボの夏の「家」の設計はすべてウィーン時代になされていた。今後はウィーンに残されている彼の業績をたどりスウェーデンの建築やデザインと比較しようと考えている。

謝辞

本研究にご協力頂いた Sweden Vellinge Kommun, Staffan Andersson氏および名古屋造形大学教授加藤万崙子氏に感謝します。

文献

- 1) JOSEF FRANK FALSTERBOVILLORNA
Mikael Bergquist Olof Michelsen 1998
- 2) モダニズム建築—その多様な冒険と創造
著者 ピーター・ブランデル・ジョーンズ
訳者 中村敏男 建築思潮研究所 2006

3) 近代建築史

編著 鈴木博之 市ヶ谷出版社 2008

図版出典

2) 筆者作図

3) JOSEF FRANK FALSTERBOVILLORNAの複写

10, 12, 13) JOSEF FRANK FALSTERBOVILLORNA及び
Staffan Andersson氏提供による

1, 4, 5, 6, 7, 9) 筆者撮影

11, 14) 筆者撮影

8) カタログ “Josef Frank Accidentism i Goodsmagasinet, Falsterbo”より抜粋